

貯木場の拡張やめよ

組合、環境改善申し入れ

かねてから地域住民、とくに諏訪・川尻地域分會連絡協議会(沖田亮三郎・三池鋸業所長に提出)した、三井鋸山の貯木場(新港町社宅西側のラワン材置き場)拡張計画は、そのなかに重大な問題がはらわれていることがハッキリしてきた。

そこで三池労組は同連協と話し合った結果、つき、貯木場拡張に反対するばかりでなくより積極的に、同地帯の環境改善に訴える要求をとりまとめ、六月五日諏訪・川尻地域分會連絡協議会(沖田亮三郎・三池鋸業所長に提出)した。三井鋸山の貯木場(新港町社宅西側のラワン材置き場)拡張計画は、そのなかに重大な問題がはらわれていることがハッキリしてきた。

①貯木場拡張のため新港町社宅西側に貯木場を拡張したい。
②目的は木材の消費を促進するため(薬品はメチルプロピド)。
③六月の船より入れたいといふのであった。
④六月の船より入れたいといふのであった。
⑤六月の船より入れたいといふのであった。

これまで貯木場は、同社宅の西端から百メートルほど離れていたが、これを二十メートル近くにまで拡張するといふもの。

計画によれば、材木の山をピニールで被い、メチルプロピドをまいて蒸散するといふのだが、蒸散が終るとさく被いを開いてガスを拡散させる仕組み。会社によれば、「これは植物防疫法で義務づけられたこと」としているというが、今では蒸散されるガスのためにスズメなどの小鳥が死に、貯木場で作業していた人が異常を訴えたりした事実もあるのを知ればそれどころではないはず。現に、現場から発見された同薬剤のアンモニウム濃度、時間による濃縮が、頭痛、けん怠感、めまい、吐き気、視覚障害、歩行不安定、失神等のガス中毒を生ずる」と記しているほど恐ろしい毒物。右の貯木場拡張に反対する声のわきあがるのは当然だ。

さて、三池労組の要求は次の通りである。

組合の要求

- (1)現在のおき地は緑地帯とせ、飛散防止対策を行うこと。
- (2)貯木場拡張部分では消毒を行なうこと。
- (3)ラワン材の悪臭とラワン材の皮の飛散防止対策を行うこと。
- (4)側溝、および排水対策を完全に行なうこと。
- (5)貯木場内のトラック、クレーンなどの騒音対策を行うこと。
- (6)薬物の地下浸透による海水・社宅汚染の防止。
- (7)貯木場内への住民の立入り調査を認めること。
- (8)交通量を制限し、諏訪川沿いの道路の清掃を強化すること。
- (9)トラックの積荷にはロープを完全にかけること。
- (10)貯木場の管理責任と、被害補償は三井鋸山が行うこと。
- (11)耕作物に対する補償を行うこと。
- (12)小川開・小浜地区への小川開貯木場からの粉じん飛散防止を行うこと。



現場から拾ったアキ罐。ちやんと恐るべき注意書きが記されていた。証拠は歴然。

三川と四山で事故連発

安全週間を前に重傷者出す

全国安全週間ポイントまでさしかかると、異常運動がやがて腰を開きようとするとき、四山と三川の両端がまた重重大事故を連発。職場に働く労働者をハッとさせた。

まず五月二十日、四日三川鋸材屋(三井五十五メートル坑道で、七十ループから右炭を積みながら、三十七編成の五トン炭車が、五十ループ入口の帯内にある池で、四山鋸に勤務する品川清喜さんの長女・明江ちゃん(二歳)が水死したが、これは同アルミの管理に行き届きがあったとして、三井鋸材屋(立山鋸業所)が抗議、同時にその善処方を要求したことは本紙前号にお伝えした。

その折会社側は「二度と災害が起きないように努力する」「巨額約したが、その後同アルミは約束通りただちに池の埋め立てを始め、これで、同校区連協の要求は急速に実現しようとしている。

三井アルミが池を埋め立て

三井鋸材屋(向井芳雄会長)が総会を開いたことはすでに本紙で伝えたが、ところで今年には、右じん肺患者(とうとうも右じん肺患者の会員)が相次いで死亡していることが注目されている。一月二十六日の西尾清喜さん(63歳。荒尾市新田地)から始めて、三月二十八日の高木三蔵さん(67歳。荒尾市緑ヶ丘)まで、まさに六人の死亡。



三井グリーンランドの遠景。一回転して客をヒヤリとさせるあのジェットコースターが見える。三井のもう一つの第一主義がここに。

金の掛るグリーンランド

五月五日(子供の日)

「よじよし」と、財布のヒモもゆるみつつある。グリーンランドにいかんどうするよかたです。そうするよ、三井も考えは改むるでし、また料金も安くするですよ。なにさ、まじまじと話を聞いていたが、ほんとうに恐ろしいほどの金の要る所だ。市民に利益還元するよか、逆ですから。」

五月五日(子供の日)は、三井グリーンランドは、自然のなかに広大な面積を占めているだけに、収容能力は相当なもの。今日だけで六万人近い入場者があつたと聞く。一家団らんのための「ジャマ」を求めてやってくるには、もつとも適した場所である。

しかし入場料金が二十円とは痛い。それだけではない、そのあとの出費が大変だ。ジェットコースターが五百円、そのほか多くの乗り物の料金が安い。子供達にとっては珍しい物だけに、何回も乗りたいが、子供が喜ぶ姿を見れば、親もついでに「まあ、いさぎ。多少の出費はしかたがない。」と、心ばかりの感心させられる。

連休の日に見たものは?

三井グリーンランドの今の姿勢は地元の住民として許されることか

三井指導部 諏訪 三郎

憩いの家石橋文化センター

「私もこの前、子供を連れてグリーンランドへいったんですが、なにさ、まじまじと話を聞いていたが、ほんとうに恐ろしいほどの金の要る所だ。市民に利益還元するよか、逆ですから。」

五月六日(石橋文化センター)

久留米の石橋文化センターへ。中央にある美術館へまっしぐらに。途中の道路の両サイドには、人用の通路も設けられているほど。憩いの場所だった。

文化センターの各所に、ハッと目をとれる動きを目で見せつけ

今年早や六人死亡

ふえ続けるじん肺患者

三池じん肺会(向井芳雄会長)が総会を開いたことはすでに本紙で伝えたが、ところで今年には、右じん肺患者(とうとうも右じん肺患者の会員)が相次いで死亡していることが注目されている。一月二十六日の西尾清喜さん(63歳。荒尾市新田地)から始めて、三月二十八日の高木三蔵さん(67歳。荒尾市緑ヶ丘)まで、まさに六人の死亡。

聞けば、じん肺患者は年々ふえ